

大学で闘争多様に

対する全学抗議集会が大
学構内で持たれ、その後
大学正門から六角橋、ベ
トナム戦傷兵の野戦病
院となっていた岸根米軍
キャンプ（現岸根公園）
を經由した約300人をデ
モ行進した（神奈川新
聞）1月19日。また、
佐世保闘争支援カンパを
巡って「学内規定」の撤
回にも成功した（2月18
日）。

米軍基地闘争や、学資
値上げ反対闘争などを経
験してきた大学生らの直
接行動は、ベトナム戦争
の深刻化に伴う反戦運動
の世界的高まりのなかで
高揚し、横浜の大学でも
さまざまに闘いが展開さ
れた。

1968（昭和43）年
1月18日、神奈川大学で
は原子力空母エンタープ
ライズの佐世保寄港に反

若者の情熱

革マル派69人を逮捕



「米タン」とは、横田
・立川の米軍基地に向け
た飛行機用燃料を積んだ
タンク貨車である。国際
反戦デーの10月21日、米
タンが頻りに通過する国
鉄新宿駅での闘争は、新
宿騒乱事件として市街戦
化したことでも有名だが、
石油各社の製油所に米軍

肝油施設があった鶴見区
安善町も闘争の場となっ
た。8月1日の集会には2
300人の東京・神奈川
を中心とする大学生が集
まり、横田基地行きの米
タンの進行を座り込みで
阻んだ。これに対峙した
機動隊は500人に及
び、最終的に69人の逮捕
者が出た（8月7日）。

11月15日の潮田公園で
開かれた集会は、国鉄動
力車労働組合、「ベトナム
△に平和を」と市民連合
（△平連）、横浜国大・
横浜市大・神奈川大の学
生、川崎の高校生との連
帯がみられた（11月16
日）。

慶応大学日吉校舎で
は、同大医学部が米軍か
ら9年間にわたり補助金
を受けた研究成果が、軍
事利用されているとの疑
惑から、学生が補助金返
還・塾長団交と公聴会の
開催を求めて紛議となっ
た。7月5日にはパリーケ
ードが築かれて校舎は閉
鎖（7月6日）。しかし
新学期となった9月16
日、授業再開を求める一
般学生により青空講義が
始まり（9月17日）、逐
次授業が再開して11月2
日の学生集会で封鎖は解
除された（11月3日）。

関東学院大学では学生
寮焼失に端を発して全学
共闘会議が組織され、教
育秩序の回復が教授団と
議論された（7月6日）。

10月24日には学生18人が
集まった大学側との団体
交渉で、学長選出への学
生参加が認められた
（10月25日）。

医学部「インターン問題
に端を発した東京大学の
闘争は、この年を通じて
過激化の一途をたどり、
翌69年1月の機動隊動員
による600人以上の逮
捕、入試中止という前代
未聞の事態に発展するこ
ととなった。

「敬称略
（横浜市史料室主任調
査研究員・平野 正裕）
〃火曜日掲載

神奈川新聞社は2020年に創業30周年を
迎える記念事業の1つ企画として、紙面連載と連
動した展示「YOKOHAMA 1968」が20
19年1月11日まで、横浜中央図書館（同市西
区）地下1階の市史資料室で開かれている。記事や
資料など約50点を展示し、当時の世相を紹介する。
休館日は11月16日や年末年始など。入場無料。問
い合わせは同資料室 ☎045(251)0000。

座り込みの様子を伝える「神奈
川新聞」紙面（部分）（1968（昭和43）
年8月2日）ニデモ隊の2倍以上の機
動隊員によって座り込みは排除され、
米タンは9分遅れで押島に出発した
（画像の一部を修整しています）

阻止に座り込み学生たちの様子

ワゴン

車

ワゴン